

臨床と研究を両手にもって!

中島喜美子

高知大学医学部皮膚科学講座臨床教授

皮膚科医1年目に先天性表皮水疱症の電顕による診断を任され、初めて電顕の世界をみたとき、その微細構造の美しさに魅せられたのが私の研究との出会いでした。みえている世界の水面下の真理を知りたいと思うようになりました。サイエンスは、深い海の深淵のようなものだと感じています。実験は思い通りにいかないことのほうが多いですが、ときにはきれいな結果が出ることがあり、その嬉しさは言葉では表現できません。自分の力でサイエンスの扉を開けたと感じる瞬間です。Bench to Bedの研究に魅力を感じています。そして、サイエンスは年齢、性別、地域を越え共通に平等に人を育てるものと思っています。

仕事と家事育児の両立は、子供が小さいうちは無理をせず、第三者にお願いできることはお願いするとよいと思います。24時間、ひとりで両方するのは困難だからです。仕事においても、日常診療と教育、学会準備、論文作成、病院経営、社会活動など、いくつもの仕事を並行していかなくてはなりません。私は、臨床、研究、教育に従事する時間を大切にしています。中でも臨床でわからなかったことを調べたり、研究のための論文を読む時間を大切にしています。実験はどんな簡単なことでも集中していないと失敗するので、いいコンディションで臨めるように心がけています。雑用に押しつぶされないよう、スケジュール表に、その月、その週、その日にすべきことを書き出し、優先順位をつけ、すきま時間も効率よく使って、仕事をするように努めています。もちろん、家族と過ごす時間も大切です。子供は18歳になったら巣立ってしまうので、大事に育てたいと思っています。

若い先生方に伝えたいことは、研究をすることで生きている世界が広がるということです。日常の目にみえている世界以外の深いところ、遠いところにサイエンスがあります。自分で手を動かすことで深いサイエンスの世界を知ることができます。論文を読めば、遠くに住んでいる外国の人がいろいろな研究をしてさまざまな考えを持っていることがわかります。学会に行けば、いろいろな人と話ができます。国際学会に行けば、研究が言葉の壁を簡単に乗り越えてくれることがわかります。

ですので医学部生には、長い人生の中で一度は研究に携わり、臨床の力量を高めるよう話します。仕事を息長く続けてください。そして、研究仲間が増えることを願っています。